

児童発達支援事業所



2024.12月号

Eメール koroiba_mori@basil.ocn.ne.jp

ホームページ <https://minnanomori.jp/jidoshien/korokoroiba/>

命を守る大切さを知る ～避難訓練より～

静岡県では、毎年11月1日を「社会福祉施設防災の日」とし、県下の社会福祉施設において防災訓練を実施しています。ころころ伊場では2日間に分けて避難訓練を行いました。

地震や土砂災害を想定した避難訓練では、室内待機をした後に第一避難場所の鴨江小学校まで避難しました。子どもたちから「土砂ってなに？」と質問もありました。近くの山が崩れてしまうことや、崩れてしまったときは室内から速やかに出て外に避難することを伝えると、真剣な表情で聞いていました。

別日には駐車場にて引き渡し訓練を行いました。今回は給食室から火災発生と想定し、どの経路だったら安全に避難できるかを予測し、駐車場内の車道を横切りながら防災倉庫前まで避難しました。子どもたちは、散歩時には通らない経路でしたが落ち着いて避難をしていました。参加された保護者の皆様、ご協力ありがとうございました。

毎月の避難訓練で、いざというときに備え命を守る大切さを子どもたちに知ってもらいたいと考えています。ご家庭でも防災についてお子さんと一緒にお話する機会があると良いですね。



芋煮会 ～まつのき保育園との交流を通して～

まつのき保育園の芋煮会に参加しました。芋煮に入れる野菜を手でちぎったり包丁で切ったりし、それらの具材を園庭で火を焚きながら温めた鍋に入れた後、園庭で遊びました。ころころ伊場に別曜日に通う友だちを見つけると手を繋いだり、一緒に鬼ごっこをしたりして遊ぶ子もいました。その後、外でまつのき保育園の子たちと一緒に芋煮を食べました。保育園の職員に「おいも大きいね！」と声をかけられ、思わず笑顔のこぼれる子もいました。

まつのき保育園との交流を通して、『保育園の同年代の子や大人と関わることを楽しむ』ことや、『療育支援として職員が集団での様子や手立てを知る』ことを大切にしています。交流の中で気づいた具体的な手立てや関わり方を在籍している幼稚園や保育園に伝え、在籍園の集団での自己発揮へと繋がると考えています。在籍園の保育者の方、また保護者の方にも伝え、有効な手立てに繋がりたいと思います。

🌻たいよう🌻

<秋の味覚を収穫！>

さつまいもの収穫をしにまつき保育園の畑に行きました。土から顔を出しているお芋もあり、「あそこにあるそう！」と子ども達はわくわくして見ていたり、職員が掘っている様子を真剣な表情でみつめ、出てきたお芋に思わず歓声があがったりしていました。いざ、みんなでお芋ほり！！粘土質の土を触ることに少し抵抗感がある子もいましたが、年長のお友だちが掘っている様子を見て真似て掘ってみたり、つるを「うんとこしょ♪」と力いっぱい引っ張ったりしている様子がほほえましかったです。自然を通して、普段あまり関わりが少ないお友だちと一緒にひとつのお芋を掘ったり、自分が掘ったお芋を見せたりと会話が弾み、関わりも多くみられ、みんなですすむ事が出来ました。お芋ほりを終えた翌週に来たお友だちも、「お芋ほったね」と思い出しては話をしてくれるくらい、子ども達の印象にも残ったようです。

<クッキング～スイートポテト作り～>

収穫したさつまいもを使ってクッキング！！蒸したお芋の塊を狙って上から「ぎゅ～！！」と言いながら潰したり「1.2.3…」と数を数えながら潰したりしました。ラップにお芋を包んではみ出ないように優しく形を整え、食事の時においしく頂きました。

今月は、さつまいもチップスやピザなど、それぞれのクラスでミニクッキングを行い、お互いにお裾分けしながら色々な味のさつまいもを楽しみました。今度は冬野菜をプランターに植えたので、お世話しながら食育に繋げていきたいと思います。



☆ほし☆

< ごっこ遊びで育つ社会性 >

今月のほしクラスはお店屋さんごっこをしました。始めに何屋さんにする？と子どもたちに投げかけました。お菓子屋さん、ケーキ屋さん、果物屋さんなど様々なお店の案が出てきましたが、圧倒的に人気だったのはお寿司屋さんでした！そこでお寿司屋さんのお仕事ってどんなことがあるかなと質問してみると、レジでお金をもらう、レシートを渡す、注文を取る、お寿司を作る、お皿を片付けるなど、ここでもたくさんの意見が。普段ご家族で楽しく外食しながらも、お店の様子もよく見ているんだなと感心します。次に誰がどの役をするか決めていきますが、「ジャンケン嫌だ、話し合いで決めよう」と言ったのはなんと年中さん！でもまだうまく自分の考えを伝えられず、大人が子どもたちの仲介役となってお互いの意見を伝えあいます。話し合いの末「しょうがないなあ」と譲ってくれるのは年長さんたちが多く、来年は年中さんも同じように譲ってくれるかな？と期待しながら見守りました。

遊びが始まり、お客役の子もたちは次々に注文していきました。そんなときに、お金がなくて困っている友だちに気が付いた年長のA君。「僕のお金、半分あげるよ」と優しい一言をかけてくれました。二人でお金を出し合い、エビのお寿司とラーメンを注文。席も隣同士に座りなおして、届いたものを仲良く分け合って食べていたのでした。

ごっこ遊びのなかでは自然と友だちとのやり取りが行われています。うまく伝わらなかったときには大人が仲介することで、どのように言えば伝わるか知っていく機会になればと願っています。